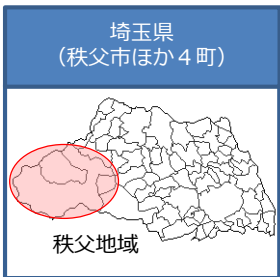


- 地域連携DMOが農泊に取り組み、行政や観光協会、地域住民、鉄道会社等の多様な関係者と連携し、コンテンツ開発や受入体制の整備、PRを実施。
- 秩父地域全体で連携する必要のある事業を実施するほか、様々な関係者が自由に参加できる会議を開催し、そこでの意見を元にインバウンド誘致の取組方針を策定。

【地域の概要】

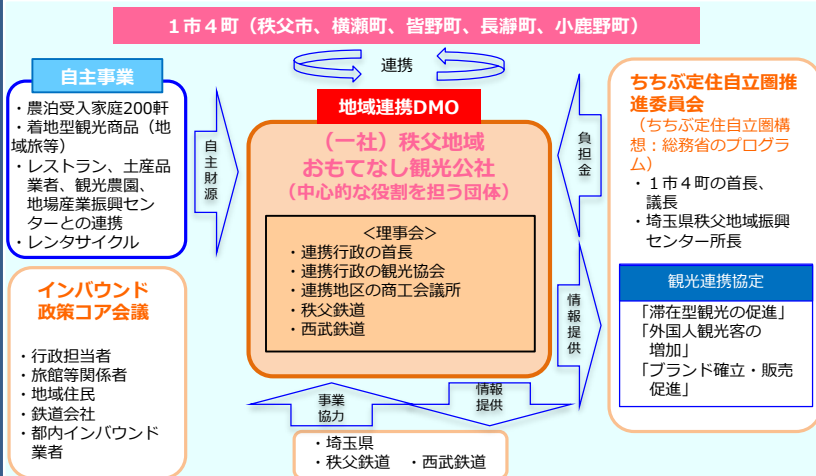


＜地域の特徴＞

- 「秩父地域」は1市4町にて構成。
- 豊かな自然とユネスコ無形文化遺産に登録された「秩父夜祭」など観光資源も豊富。
- 都心から近いため、日帰り観光客が多く、宿泊者は全体の2割強。
- 「第5回ディスカバー農山漁村の宝」選定地区。



【実施体制】



＜秩父地域おもてなし観光公社＞

- (一社) 秩父地域おもてなし観光公社 (以下、公社) は、1市4町にて締結された観光連携協定を促進する組織としてH24に設立。H28に日本版DMOの第一弾として登録。理事会には、1市4町の首長、観光協会、商工会、鉄道会社が参画し、定期的に計画の見直し、合意形成を諮る。
- 中心事業として、行政、観光協会、商工会で実施しておらず、かつ、秩父地域全体で連携する必要のある事業(例: 農泊)を担当することにより、地域全体の観光プラットフォームとしての機能を確立。
- 地域内でインバウンド事業への機運が高まっていたが、事業の方向性が定まっておらず、様々な意見が出ていることから、インバウンド誘致について、誰でも自由に出入りし発言できる場として、「インバウンド政策コア会議」を設置。

【取組内容】

＜DMOが農泊に取り組んだ経緯＞

- 「農泊」について、1市4町が連携するツールとして、関係市町の首長全員が、公社設立当初から、実施に向けた意向が強かった。
- 埼玉県が進める、県内に教育旅行を誘致するための「教育旅行のメッカ」埼玉づくり事業について、秩父地域において教育旅行の受入に協力するよう、県からの要請。
- これらの経緯から、H26より公社の中心事業として、農泊による教育旅行の受入を開始。



＜コンテンツ開発の一例＞

- 公社が「地域限定旅行業」を取得し、地域全体の観光資源を組み合わせた体験型プログラム『ちちぶを旅する地域旅』の販売を実施。民間企業が運営する旅行サイトにて予約を受付。

『地域旅』の例

ラフティング	✂	ピザ作り体験
地酒で乾杯! 炭火BBQ	✂	BARで秩父ウィスキー
イチゴ狩り富田農園	✂	ハイエル温泉と秩父食材夕食

秩父地域の
おすすめ体験プラン
ちちぶを旅する地域旅

＜インバウンド事業実施までの流れ＞

